



環境問題(汚染やリスク)の認知



環境汚染と認知の関連

Barker, M.L., 1976; Coughlin, R.E., 1976)

- 客観的な汚染度と汚染認知との関連
ほぼ相関している



環境汚染の認知の歪み

Barker, M.L., 1976; Coughlin, R.E., 1976

- 社会的要因や個人的特性による認知の歪み
- 環境利用の個人的差異や季節的変動のバイアス(Auliciems&Burton, 1971)

環境汚染の認知の歪み

Renn, et al., 1992

- 汚染認知におよぼすメディアの効果
行政・マスメディアを通じての間接的影響
- 新聞の年間報道量が災害などの環境問題のリスクの大きさを規定する

環境問題の認識の心理学的特徴

- 環境問題への個人的関心は薄い
 - 他の社会・個人 이슈ー(教育, 不況, 健康など)の影に隠れる
 - マスメディアや世論の動向に左右されやすい
(eg. The Greenpeace effects)
- 環境と自分の生活との関連が見えにくい
 - 汚染原因の複雑さ、汚染進行の緩慢
 - 他者(生産者など)を介在して環境と間接的関連
 - 問題の解決が自明でもなく、容易でもない
 - 個人的対処の限界, 社会的ジレンマ解決の困難さ
- 以上から、環境問題への持続的関心が低下、あるいは認識の回避傾向




汚染認知の特徴

- 目につきやすい触知しやすい側面に注目
(汚れ・匂い・透明度低下)

事例:琵琶湖における赤潮発生、ロサン
ジェルスの光化学スモッグ

- 気づきにくい側面
(無色・無臭の有害ガス・病原菌や農薬の含
有量やその蓄積)

事例:体内へのメチル水銀の蓄積、フロン
ガスのオゾン層破壊による皮膚ガン




感覚・認知からの制約

- 環境刺激の微分的側面(汚染変化) と積分的側面(汚染の蓄積) の差異
- 不快刺激にたいする感覚の順応
- 認知閾以下の微量物質による環境汚染 (Barker, 1976)



環境リスクの認知

- 将来に生じる恐れのある環境汚染による被害についての評価
(Slovic,.et al., 1979; Slovic, 1987)
- リスク: 危険をもたらす確率×障害の重篤度



リスク認知のヒューリスティックバイアス


- 必ずしも合理的ではないが日常生活の経験にもとづいた簡便な問題解決方法
- 利用可能性 (Availability heuristic bias) による歪み
- 具体的事例の想起やイメージしやすさによるリスク評価
- ありふれたもので、一度に少数にしか被害のないものを過少評価 (一般的病気)
- 劇的でセンセーショナルなもの、多人数への被害が予想されるものは過大評価 (飛行機事故, 原発事故)

リスク判断への過信による歪み

- 客観的知識でなくヒューリスティックな方法でおこなわれたリスク評価にも かかわらず、実際以上にその判断を過信する傾向
- 専門家においてもリスク評価の過信がある
- 技術の予期できるリスク評価はしても、予期せざる側面の存在を過小評価
- 複雑なシステムでの事故の不可避性、技術の安全性へのヒューマンエラーの軽視
(原発での操作ミス、スペースシャトル事故、ボパール化学プラント事故)

確実性への強い欲求による歪み

- 不確実性に直面して生じる不安を回避するために、不確実性の防衛的否認
- 被害の恐れの高い地域住民にみられる被害の過少評価(竜巻洪水など常襲地域)
- 甚大な被害が予想されるが、それを回避できない場合での技術自体の全面的拒絶(原発の拒否)
- ゼロリスクへの欲求とリスク軽減の膨大なコストとのアンビバレンス



リスク認知の心理的な3つの基本次元

- 客観的なリスク測度(死亡率や事故率)と異なる心理的尺度
- 恐ろしさ(dread)の次元: リスク制御の悪さ、破壊性
- 未知性(unknown)の次元: 科学的知識の欠如
- 関与者の人数(no. of people exposed to risk)の次元



リスク認知のヒューリスティックバイアス

- 必ずしも合理的ではないが日常生活の経験にもとづいた簡便な問題解決方法
- 専門家(死亡リスクの基準)と素人(体験などの基準)によるリスク評価の差異の存在(原子力などの事例)
- 目につく想像しやすい情報を発信するメディアによるバイアス



.環境リスクのコミュニケーション (Morgan, et al.,2002)

- 環境リスクに関する専門家と市民の双方向的コミュニケーションの必要性
- それぞれのメンタルモデルの違いによるコミュニケーション不全
- HIV/AIDSの要因連関についてのメンタルモデル(Morgan, et al.,2002)
- 市民の側での不治の病イメージと飲酒によるリスク過大視